

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800015		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホームファミリア下呂		
所在地	岐阜県下呂市森1173番地		
自己評価作成日	令和7年9月1日	評価結果市町村受理日	令和7年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2192800015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2192800015-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念に基づき、地域に根ざすやさしさ、やすらぎ、信頼をモットーとし、職員一人一人が意識を持って介護サービスに努めています。施設でできる範囲で、恒例の行事や施設内や庭での散歩などをおこない気分転換をおこなっています。また利用者が残された力を発揮し、おやつ作り、季節の食材を使用した昼食作りなどや洗濯物の片付けなどを手伝っていただき、できる楽しみをみつけて、いきいきとした生活ができるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台にある事業所は、通所サービスや小規模多機能型居宅介護等が併設されている。温泉街である花火見物は、利用者同士の交流の機会となっている。元保養所の建物を活用しており、大浴場で温泉を楽しみ、大きな窓から四季折々の景色を眺めながらの入浴は利用者の至福の時間となっている。地域の福祉事業所や支援学校とのつながり、ボランティアの来訪や地域のふれあいカフェへの参加など、地域に根付いた活動や支援に取り組んでいる。働きやすい職場環境作りにも努め、技能実習生には敷地内にある住居を提供し、男女別の職員休憩室も設けており、管理者と職員の関係も良好である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有と実践として、理念を目につくところに掲示し、常日頃より意識して、介護に活かせるようにしている	法人理念を各フロアの目につく場所に掲示している。外国人スタッフにも、理念を理解できるよう丁寧に説明している。新任職員には、理念を暗記するのではなく、意味を理解することが大事と伝え、その理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例の行事となっている、支援学校の生徒さんが、太鼓の演奏会をおこなってくれた。また季節行事にはボランティアの方にてオカリナ演奏やフラダンスのイベントがあり交流ができた。区の夏祭りにも参加できた	特別支援学校との交流を継続している。下呂温泉祭りでは、地域の太鼓や張り子の龍の演舞が事業所前に来訪するなど、皆で楽しむことができている。また、地域の「ふれあいカフェ」にも参加し、利用者が顔馴染みの人との交流する機会となっている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回推進会議を開催している。出席者の方は少ないが、行政の現状を聞いたり、地域の区長さん、民生委員の方の意見交換もできている。	運営推進会議には行政や区長、民生委員、家族等が参加し意見交換を行なっている。各種行事への案内や地域防災などについて、助言や提案を受けている。すべての家族に便りと共に、案内や議事録を送付している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に出席していただいたり、行政主催の会議などに出席して、意見交換などや、アドバイスをいただいている	市担当課とは運営推進会議などの機会を通じて助言を得たり、事業所の運営状況を報告している。相互に情報交換しながら協力関係作りに努めている。近隣中学校から、生徒の体験学習を受け入れるなど、公的機関との連携もある。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のテキストやDVDによる勉強会などで理解を深め、委員会などでも現状の状態や検討をおこない拘束のないケアを目指し取り組んでいる。	定期的に委員会を開催し、利用者の状況について意見交換を重ねている。研修にはeラーニングなどの動画配信サービスも活用しながら、最新の状況を理解し、職員の質の向上及び、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所にてテキストやDVDにて学習している。表皮剥離などの原因を追及したり、対策を考えている。愛護的介護をめざす。職員間で不適切ケアがないか意見箱を設置した	虐待防止の指針を整備し、委員会を開催している。研修も行っている。虐待防止委員会では参考資料の事例について意見交換を行っている。不適切ケアについて、誰もが気付いた時に報告できるよう意見箱を設置し、2ヶ月経過したが意見は出ていない。	

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者に成年後見制度を利用されてみえる方はいないが、機会があれば研修などをおこない理解を得る		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より契約内容を確認していただき、契約時には納得されるまで説明をおこなっている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望、苦情などを電話や面会時に聞いていただけるようにしている。	家族の来訪時に意見や要望を聞いている。利用者の身だしなみについて、家族から意見があり、職員間で共有しながら改善に努めている。法人発行の便りやInstagramなどを通じて、行事等の情報や利用者の日頃の様子を発信している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や2か月に1回の管理者会議において、意見や要望を聞いている。また議事録を回覧して全職員に通達している	日頃から、統括部長や施設長も現場に入っており、職員会議だけでなく、日常的に職員の意見を受け止めやすい環境である。不適切ケアについての意見箱は、虐待防止委員会からの提案を形にしたものである。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	就業中の職員に意見を聞いたり、状況を把握している。法人が人事評価制度を導入し、面接などもおこない、就業環境の整備に努めている。	人事評価制度を設け、個別面談も行っている。有給休暇や希望休なども取得しやすい職場環境であり、休憩室も男女別に用意している。技能実習生には法人敷地内にて住まいを提供するなど、働きやすい環境作りを行っている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の勉強会を開催している。出席できない職員には資料を配布したり、昼の時間におこなったりしている。資格取得できるように勤務時間も考慮している。	年間研修計画を作成し、毎月、接遇やプライバシーを侵さない支援について学んでいる。新人研修の際には、法人理念について学ぶ機会を確保し、質の向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ケアマネ会議や事業所懇談会などに参加して、情報の交換や当事業所が今出来る事を発信している		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事、やりたい事をやっていただき、共に支えあう事ができる関係を築いている		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人が日々の会話、コミュニケーション、表情から本人の思いを把握、推察するようにカンファレンス等で意見交換をおこなっている。	利用者の普段の様子や会話などから思いや意向を把握している。それらを業務日誌やミーティングで共有している。意思表示が困難な利用者の場合は、表情や行動を注意深く観察しながら、思いを汲み取り、職員間で共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや職員間での会話の中での意見交換やケアマネとの担当者会議において現状にあった支援ができるように努めている。	介護計画については、事前に家族から意見を聞き、担当者会議に反映させている。かかりつけ医や歯科医、薬剤師等、専門職の意見を参考に、本人が楽しみにしていること継続できるケアプラン作りを行なっている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りノートを活用することで職員間の情報の共有をおこない、今何が1番必要かを検討し支援につながるように努めている	個別記録や申し送りは手書きで記述し、職員間で共有している。ヒヤリハットや事故等の連絡については、入居時に家族から聞き取っており、意向に従って連絡・報告をしている。日々の記録を計画の見直しに活かし、利用者の状態に即した支援に努めている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	傾聴や意見交換により抽出した本人、家族の希望には柔軟に対応し可能なかぎり希望に沿った支援をおこなえるようにしている。	利用者の希望を聞きながら、訪問理美容を利用できるよう支援している。また、ジンギスカンが食べたいとの利用者の希望を叶えるなど、柔軟に対応している。家族対応が困難な車椅子利用者の通院は、職員が支援している。	

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の支援学校の生徒さんの訪問や移動販売、パン屋さんの利用ができた。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を主治医としている。送迎の支援や、受診に付き添い主治医との関係を築き、状態の報告や、緊急の場合の対応を依頼している。	入居時に、従前のかかりつけ医を継続できる旨を説明している。協力医は月2回の往診がある。看護師が職員として配置されており、日常の健康管理を担っている。専門医への受診が必要な場合は、家族に依頼している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との情報交換をこまめにおこない、協力体制を整えている。入院時には看護師も付き添い今後の治療方針や入院期間の話をきいたり、退院についても、医療機関と家族との調整をおこないながら、連携を図っている。	入院時は、最新のサマリーを入院先に提供している。退院時は、近い医療機関であれば看護師がカンファレンスに参加するが、遠い場合は電話で情報交換し、退院後の生活がスムーズに再開できるよう支援している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の特徴を説明したうえで、本人家族が希望され納得できる終末期がむかえられるようにカンファレンスをおこない、同じケアができるように支援している。医療機関とも連携をとっている。	前回の目標であった看取り支援について、実施前後に、職員ミーティングを開催し、看取りのプロセスを職員間で共有している。記録を残すことで経験の浅い職員であっても、慌てることなく対応ができた、振り返りを行なっている。	昨年度は看取りを1件実施している。経験を重ね、記録を丁寧に蓄積していくことで、スムーズな支援が行えると思われる。今後も、本人・家族が納得できる看取り支援に取り組み、統一化にも期待したい。
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修にて知識を高めるとともに、マニュアルにより緊急時の対応を確認している。また事例があった場合はその時の対応などを振り返り確認している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害BCPにもとずいて年2回おこなった。備蓄の整備や管理もおこない意識を高めた	BCPを策定し、避難訓練を年2回実施している。ユニット毎に別日を設定し、利用者も参加して実施し職員の意識付けにも繋げている。地域の回覧板で避難訓練への参加を呼びかけたが、参加者はなかった。	ユニット毎に避難訓練を行うことが出来ている。次のステップとして、2ユニットでの避難訓練を行った場合の課題を抽出し、安全な避難を実施する為の検証に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内での勉強会を開催し、言葉使いや態度、軽率な対応にならないように注意している。人格の尊重を意識している。	年間研修計画において、接遇やプライバシーについての研修を実施している。浴室は温泉を利用した大浴場であり、同時に3人ずつ入浴ができる。個浴の対応や同性介助にも配慮して支援している。トイレにはカーテンを設置している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員により思いや希望を表す場を設けて、自己選択の機会を提供し、御本人が思いを表現しやすいように対応している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者との会話や表情などで、その日の思いなどを聞き出し希望に沿って生活できるように支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつを月1回程度開催し、一緒に準備して作っている。季節の食事、朴葉寿司やおはぎ、五平餅などで季節を感じてもらっている。	ご飯と味噌汁は事業所で手作りし、提供している。主菜・副菜は配食サービスから届いた物を活用し、盛り付けは各ユニットで行なっている。誕生日会では、利用者の希望を聞いてようかんパフェを作ってお祝いするなど、楽しみに繋げている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し状態把握をしている。季節に応じて水分摂取量も調節している。食事量の少ない方は主治医にも相談し、栄養剤などの処方依頼したり、食事形態を検討したりして支援している		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助にて毎食後個々に合わせた口腔ケアをしている。口腔内の異常や義歯の調整は歯科衛生士に依頼し、連携し対応している	朝の起床時も含め、一日に4回口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。職員介助による口腔ケアを基本とし、全員が毎週、歯科衛生士による口腔内チェックも受けている。器具の消毒は週一度職員が行っている。	

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表の記録をおこない、訴えのない方でも誘導をおこなって、トイレでの排泄ができるよう支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	温泉入浴を楽しんでいただいている。言葉かけや促しのタイミングや方法に気をつけなるべくゆっくり入浴できるよう支援している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境整備により居室で快適にすごせるように配慮している。日中も休息時間がとれるように状況に応じて対応している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	マニュアルのもと確認作業の徹底をおこない誤薬を防止している。内容の変更や追加などは看護師より情報を提供してもらい共有している	利用者の薬剤情報は、個別ファイルに入れ、職員の誰もが確認できる。誤薬を防ぐため、服薬前に声を出して確認作業をすることをルール化している。薬剤師とも連携し、個々の状態に応じた服薬支援を行っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の意欲や能力に合わせて可能な事を見守り、声掛けをして支援している。毎月行事を計画し楽しみをもっといただくようにしている。	利用者の多くが、食べることを楽しみにしており、朴葉寿司、五平餅、ビュッフェ形式での提供やおやつ作り等を行なっている。また、家族が用意した道具で塗り絵を楽しむ利用者もあり、職員が出来栄を称賛し、張り合いや楽しみの継続につなげている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候により、敷地内の散歩を実施している。おやつを庭でいただいたりしている。できる範囲でドライブに参加していただいている	土雛の展示がある時期は合掌村を訪れたり、ドライブに出かけている。春には、桜の下でティータイムを楽しむなど、気分転換を図っている。近隣は交通量も多く、坂道も多いため、敷地内を散歩しながら、彼岸花を眺めたり、金木犀の香りを楽しんでいる。	

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売や訪問パン屋、日用品の購入など本人の選択により購入し、職員が支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人ができる範囲で手紙や電話を自由に利用できるようにしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃により清潔保持をしている。四季を感じるできるように季節にあわせた作品を飾ることや、行事の写真などを掲示し楽しんでいただいている。	明るく整理整頓が行き届いたリビングは、定期的な換気や温湿度管理が行われている。廊下には季節に応じた利用者の作品や行事の写真を飾っている。元保養所であった大浴場は、温泉がひかれており、入浴しながら窓から見える四季折々の景色を満喫することができる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同士で過ごせるように席の位置など配慮している。他の事業所のフロアには感染対策をとり時々面会に行ったりしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族の希望のものを居室に配置している。写真や作品を飾り、居心地よい空間になるように工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故防止をはかり、安全な環境で過ごせるように本人の身体状況に応じてベッドの位置や家具の配置を工夫したり、手すりの設置をおこなっている。		